

## 自己評価報告書

平成23年 4月19日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008 ~2012

課題番号：20530159

研究課題名 (和文) 人口減少社会のもとでの経済システムについての理論的考察

研究課題名 (英文) Theoretical study on economic systems in face of a population decline

## 研究代表者

桃田 朗 (MOMOTA AKIRA)

筑波大学・大学院システム情報工学研究科・准教授

研究者番号：30309512

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・理論経済学

キーワード：マクロ経済学, 人口経済学, 経済成長理論, 少子高齢化, 人口減少社会

## 1. 研究計画の概要

本プロジェクトで追究することは、人口が減少するもとで、わが国の経済構造がいかなる方向に変化しうるかについてのビジョンを提示することである。人口減少という現象を深刻に捉えるべきか否かについて、数多くの議論がなされているが、「経済理論の立場から」一定の回答を提示することによって学術的に貢献すること、そして人口減少とグローバル化とに立ち向かわなければならない今世紀において、わが国がどのような経済政策をとることが望ましいかを考察することを研究の目的とする。

## 2. 研究の進捗状況

(1) 平成20年度には、研究目的の「日本の人口減少問題と経済」を考察するために大変に役立つと考えられる理論的手法について、重点的に研究した。その成果は査読付学術雑誌(以下の項目5を参照)より公刊された。

(2) 平成21年度には「晩産化が経済成長経路に及ぼす効果」についての分析結果を論文としてまとめた。現在はそれを改訂しながら、国際的学術雑誌に投稿しているところである。

(3) 平成22年度には「高齢化による介護需要の増加が、経済成長経路に及ぼす効果に関する理論的な分析」についての成果を論文としてまとめた。現在はそれを国際的学術雑誌に投稿しているところである。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

現段階までについては、それぞれの年度当初の交付申請書の研究実施計画に掲げた事柄からは大きく外れることなく、コンスタントに論文執筆ができていた点は順調だといえる。同時に投稿論文の審査結果を受け取るまでに要する時間がやや長い点についてはもどかしさを感じる。

## 4. 今後の研究の推進方策

残りの2年においても、国際的な査読付学術雑誌に投稿することを念頭に論文の執筆を積極的に行う予定である。また、それを行うために、有用な文献やデータ類の入手、学会や研究会への積極的な出席を行う。

## 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

1 Akira Momota, "A Population-Macroeconomic Growth Model for Currently Developing Countries," *Journal of Economic Dynamics and Control*, 査読有, 32(2), 2009, 431-453.

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

特になし。